



【理念】

患者さまの立場に立ち、その方の終生にわたり健康を支え、質の高い診療と心地よい療養環境を提供します。

【基本方針】

- ★ 患者様のニーズと負担を考慮し、適正で効率的な医療を提供します。
- ★ 医療スタッフによる十分な説明と患者さまの選択に基づく開かれた医療を進めます。
- ★ 地域に根ざし、患者さまに終生かわり合いを持つ医療を目指します。
- ★ 患者さま、職員にとって「心地よい環境」の向上に努めます。



《INDEX》

- | | |
|--------|--------------------------------|
| P. 1 | 表紙 <稲穂> |
| P. 2 | 未来のエンジニアが腕前披露！ 高校生の力で車いすが快適に！ |
| P. 3 | 名月コンサートが開催されました |
| P. 4～5 | あなたらしい最期を迎えるための対話「人生会議（ACP）」 |
| P. 6～7 | ひとりごと <ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート旅行> |
| P. 7 | 新田中学校の生徒が職場体験学習に来てくれました！ |
| P. 8 | 通所リハビリテーションの役割 |



未来のエンジニアが腕前披露！ 高校生の力で車いすが快適に！

9月29日(月)、倉敷工業高校機械科の2年生10名と先生方が来院し、院内で使用している車いすの整備活動を行っていただきました。

当日、生徒の皆さんは日頃の学習で培った技術を存分に発揮。使い込まれた車椅子を一台ずつ丁寧に点検し、タイヤの空気圧やブレーキの効き具合、ねじのゆるみなどを細かくチェック。工具を手に真剣な眼差しで整備にあたられていました。

整備を終えた生徒さんからは「勉強になった」「新しい発見があった」「部品がピタッとはまった時がちょー気持ちよかった！」といった感想も。教科書だけでは得られない”リアルな現場体験”ならではの感想がとても印象的でした。

若い力によってリフレッシュされた車いすは、快適にそして安全に患者さんに使っていただけるようになりました。倉敷工業高校の皆さん、本当にありがとうございました。



名月コンサートが開催されました



10月1日に院内にて「名月コンサート」が開催されました。今年も多くの患者様やご家族、地域の方々が集まり、音楽を通じて心温まる交流のひとときを過ごしました。演奏中に自然と手拍子が起こる場面や歌を口ずさむ姿も見られ、普段なかなか外に出られない方にとって大きな励みになったようです。「演奏を生で聴くことができて感動した」「元気をもらえた」との声も聞かれ、病院職員や演奏者にとっても大きな喜びになりました。音楽の力が人と人をつなぎ、病院という場に笑顔と活気をもたらしてくれたことを改めて感じます。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げますとともにこの「名月コンサート」が来年以降も開催できるよう、委員会メンバー一丸となって取り組んで参ります。



あなたらしい最期を迎えるため

「人生の最期は、自分らしくありたい」と願う人は少なくありません。しかし、いざというときに自分の意思を周囲に伝えられず、望まない医療やケアを受けることになってしまうケースもあります。こうした事態を避けるために、ご本人、ご家族、医療・介護の専門家が繰り返し対話を重ね、将来の医療やケアについて話し合うプロセスが“アドバンス・ケア・プランニング（ACP）”です。厚生労働省はACPを「人生会議」という愛称で呼び、その普及を推進しています。

なぜACPが必要なのか？

ACPが重要視されている背景には、日本の超高齢社会があります。急な病気や事故、認知症などで、ご本人が自らの意思を伝えられなくなる可能性は誰にでもあります。このような状況で、ご家族や医療者が本人の価値観や希望を知らないまま医療の選択を迫られると大きな負担と後悔を抱えかねません。ACPはこうした不安を軽減し最善の選択が出来るようにするための取り組みです。

ACPのプロセス

ACPは一度きりの話し合いで終わるものではありません。ご自身の健康状態や生活環境、人生観の変化に応じて何度も見直していくことが大切です。話し合いは一般的に次の4つのステップで進められます。



の対話「人生会議(ACP)」

1. 意思形成期：「自分はどんな人生を送りたいか」「何を大切にしたいか」といった価値観や希望を整理し、自分らしい生き方を考えます。
2. 意思表明期：整理した価値観や希望を、ご家族や医療・ケアチームと共有します。
3. 意思決定期：医療やケアに関する具体的な情報を得て、ご自身の価値観に沿った選択をします。
4. 意思実現期：決定した内容を共有し、将来の医療やケアに備えます。



いつ始めるべきか？

「人生の最後について話すのは縁起が悪い」と考える人もいるかもしれませんが、人はいつ、どのような状況で意思を伝えられなくなるかわかりません。健康なうちから少しずつでも、ご家族と日頃の会話の中で「もしもの時」について話しておくことが大切です。

ACPは人生の最終段階を「誰かに任せる」のではなく、ご自身の意思で「選択する」ための大切なツールです。人生の価値観や希望を共有し、対話を重ねることで、ご本人はもちろん、ご家族にとっても後悔のない、穏やかな最期を迎えられるようになります。人生会議を通じて、あなたらしい生き方を最期まで貫くための備えを始めてみてはいかがでしょうか。



ウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート旅行

総院長 坂口 孝作

この6月に40年ぶりにアメリカ・フロリダ州にあるウォルト・ディズニー・ワールド・リゾート（ディズニーワールド）に行きました。私の長男が米国ミシガン州にいて、孫たちが夏休みに入ったのでディズニーワールドに行くことになり、私たちも日本からディズニーワールドに行きました。私がニューヨークにいた1985年に、当時4歳の長女と2歳の長男を連れてディズニーワールドに行ったことがあります。その時には飛行機でオーランドまで行き、レンタカーを借りてオーランド（ディズニーワールド、当時はマジックキングダムとエプコットしかありませんでした）、マイアミ、キーウエストへの旅行を楽しみました（長男はその時のことを全く覚えていませんが・・・）。それから40年、まさか40年後に孫たちとディズニーワールドを楽しむとは思ってもみませんでした。

羽田からニューヨーク（12時間）、ニューヨークで国内線に乗り換えてオーランド（3時間）、あわせて15時間の長旅をして、夕方にディズニー・アニマルキングダム・ロッジに着きました。翌日は時差と疲れで吐き気、めまいがして動けず、ほぼ一日ホテルで寝ていました。次の日から、開園前のマジックキングダム：レット・ザ・マジック・ビギンから始まって、ゆっくりとそれなりに（年なりに？）様々なアトラクションを楽しみました。アニマルキングダム：アバター・フライト・オブ・パッセージ、ハリウッド・スタジオ：スターウォーズ ライズ・オブ・ザ・レジスタンスなども試したのですが、アバターやスターウォーズの映画は見てなくて、しかもこの年でストーリーについていけず、ただただ乗り物の揺れ・スピード感にめまい、吐き気が増すばかりでした。孫たちは孫たちで楽しみ、せっかくアメリカまで会いに来たのにほぼ別行動で、時に夕食を一緒にするくらいでした。2日目の夜には、長男の嫁さんがレストランを予約していました。なんと、そのレストランではミッキー、ミニーをはじめとするディズニーのキャラクターがそれぞれのテーブルにまわって来て、挨拶します（ハグできますし一緒に写真もとれます・・・でも、もうそんな年でもないですから）。

夜のディズニーワールドも楽しめます。ハリウッド・スタジオの野外半円型シアターで行われるディズニーキャラクター総出のショー：ファンタズミック、花火とプロジェクションマッピングのマジックキングダム：ハッピー・エバー・アフターなどは圧巻で、私のような年齢でも純粋に楽しめました。

ディズニーワールドには本当に多種多様な人々がいます。若い人もいれば、年老いた人もたくさんいました。超肥満のために歩くことができず電動カートで移動していた人もそれぞれ思い思いにアトラクションを楽しんでいました。様々な人種、肌の色、話す言葉、本当に多種多様でした。ディズニーワールドでは、訪れる全ての人々が単純に理解できる“夢と希望”を共有できます。年老いている私でもそうであるように純粋に“夢と希望”を楽しむことができます。これがアメリカの良さ、アメリカの文化であると、改めて実感しました。5泊7日というウォールト・ディズニー・ワールド・リゾートの旅でしたが、それでも行っていないパークやリゾート、見ていないアトラクションはまだたくさんあります。もう一度行きたいという気持ちはありますが、でももう行くことはないと思います・・・。

新田中学校の生徒が 職場体験学習に来てくれました！



9月9日から11日までの3日間、新田中学校の生徒4名が、当院で職場体験学習を行いました。未来の地域医療を支えるかもしれない若い世代が、医療の現場に一歩足を踏み入れ、さまざまな部署を見学・体験しました。

見学先は、医局や栄養課、検査課、事務所、地域支援センター、リハビリテーションセンター、薬局、放射線課、回復期リハビリテーション病棟、さらには通所リハビリまで多岐にわたりました。また、感染予防対策の体験や、物理療法の一部を体験する機会もあり、日ごろは見えにくい医療現場の裏側にも触れてもらいました。

体験後には、生徒の皆さんから丁寧なお礼のお手紙が届きました。その中には、「職員の方々が見えないところでも手を抜かず、衛生面を徹底している姿に感動した」「患者さん一人ひとりに真剣に向き合う様子が印象的だった」といった言葉が綴られており、私たち職員にとっても大きな励みとなりました。

限られた時間の中でしたが、医療や介護に対する関心が少しでも深まったのであれば、私たちにとって何よりの喜びです。地域の子どもたちの成長を見守ることも、地域医療の大切な役割の一つ。今回の体験が、生徒の皆さんの将来の選択肢のひとつになることを願っています。

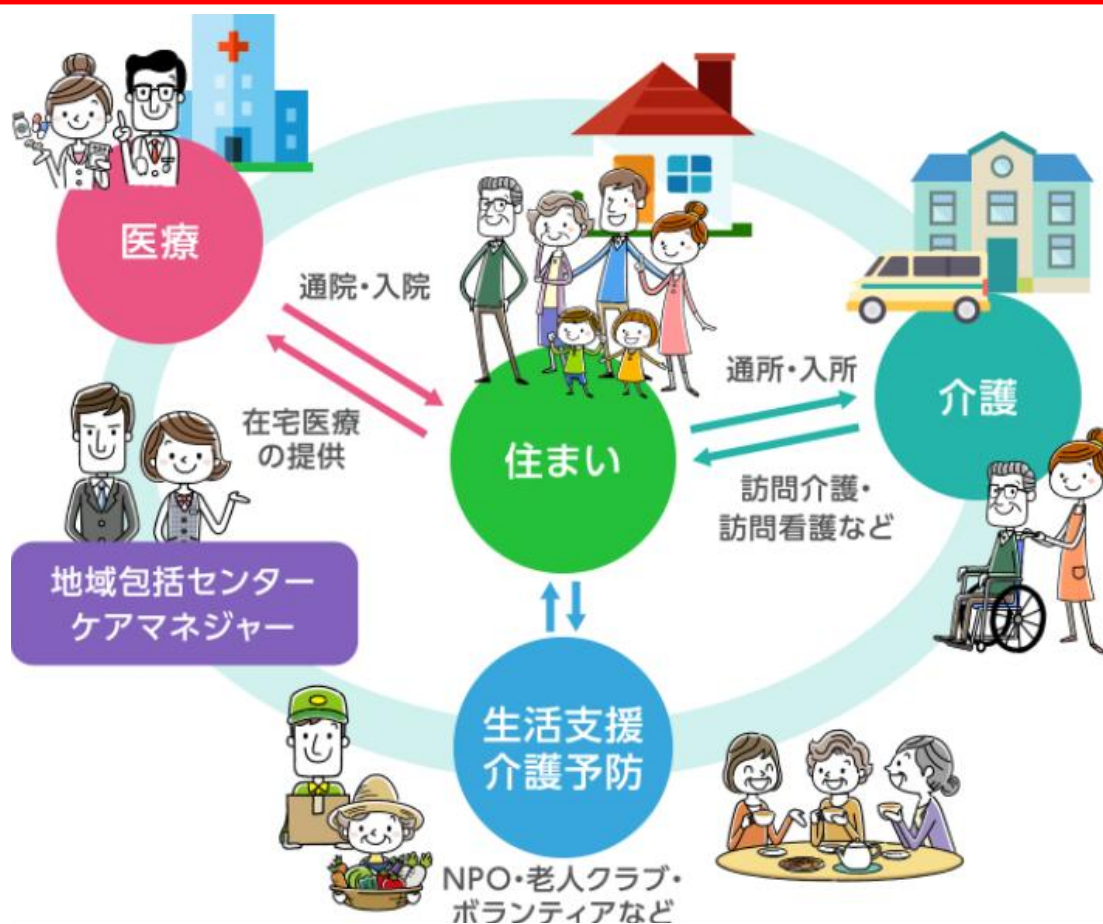
通所リハビリテーションの役割

団塊世代が75歳以上となる「2025年（今年）」高齢化率が今後も高くなり働き手が減少していく「2040年」問題を控え、各介護サービス事業所そして通所リハビリの役割も大きく変化しています。医療ニーズが高い中重度の高齢者や認知症の方、単身高齢者を含め、質の高いケア・マネジメントや必要なサービスが切れ目なく提供されるように、地域の実情に応じた柔軟かつ効率的な取り組みを推進しています。「住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう＜地域包括ケアシステム＞は、必要不可欠なもの」です。

そして、地域包括ケアシステムの一環として、リハビリの役割は・・・

「日常生活の活動を高め、利用者の意欲を引き出し、生きがい作りや社会参加を促すこと」

が目標とされています。



通所リハビリテーションでは、在宅生活を支援するために「基本動作のみならず、家事動作など生活関連動作を改善し卒業して地域へ戻っていくための支援機能」として、個々の状態や意向に基づく、適切な目標設定を行い、質の高いリハビリテーションを提供しています。